

平成 28 年（2016 年）3 月 24 日

後期終業式訓話

皆さん こんにちは！

早いもので後期の終業式の話をする時期になってしまいました。今日は皆さんへのお礼とお願いをお話しして年度の区切りとしたいと思います。

先ずはお礼を 3 つから

1 つ目は卒業式についてであります。私にとって本校での初めての卒業式は、「本当に手作り感のある、温かくそして感動的な素晴らしい式であった。」と多くのご来賓の皆さんからお褒めの言葉を頂きました。

卒業生の素晴らしさはいうまでもありませんが、2 年生と 1 年生が卒業生のために「良い式にしよう」という姿勢や態度が素晴らしかったからこそ出来た式だと思っています。「聞く姿勢」「自然な拍手」そして何より「自分たちの卒業式を想像していた。」のではないのでしょうか。本当に素晴らしい卒業式にしてくれて本当にありがとう！ 心から感謝いたします。

2 つ目ですが、挨拶です！ 天白公園のトイレ清掃をしてくださっている方が「最近の蘇南生は見知らぬ私にまで気持ちの良い挨拶をしてくれて、本当に嬉しかったし、元気を頂きました。」とわざわざ人を介して私に報告してくださいました。夏休み明けの集会でもお話ししましたが「おはようございます こんにちは さようなら」の言葉は途中で切れています。明るいトーンで言えば「良い事がありますように！」という祈りとなり、暗いトーンで言えば「あなたと二度と会いたくない」という事になります。引き続き明るいトーンでの「挨拶をお願いします。」

3 つ目です。先日、私の前任校を卒業した教え子の大学 1 年生が、ネパールへの地質調査に向かう途中で蘇南高校の私を訪ねてくれました。高校の先輩の中村英先生と大学の先輩の前野先生のお二人に彼女は学校内や授業を案内してもらいました。感想は「蘇南生って凄く感じがよいね！ 良い表情をしているね！ 目が生き生きしているね！」と語ってくれました。その後中津川へ向かう電車の中では蘇南生が声を掛けてくれたそうで、「凄く嬉しかった」そうです。「杉さん良い生徒さんで幸せだね」とも。

次ぎにお願いがあります。

今日からおおよそ1週間後に大勢の新入生が蘇南高校に入学してきます。「蘇南に行きたい」という入学生たちです。

私は新3年生、新2年生となる皆さんと先生方と協力して魅力ある蘇南高校にしたいのです。それには「皆さんが先生から与えられるのを待つのではなく、自分たちで考えて学校環境を改善したり、自ら求めて勉強をしてほしいわけです。」そして「南木曽町の最大の財産である妻籠宿を中心とする、南木曽の歴史、文化、技術、産業、観光、外国人文化」に直接沢山触れてほしいと思っています。そういう中で「自分の言葉で考えて、自分の言葉や文章で表現する力」をつけてほしいと思います。そして各行事で「今年以上に感動する」素晴らしい年にして行きましょう。

そのためには、節目節目に心新たに自らをコントロールしようという決意をしなければなりません。時が過ぎるに任せていていいわけがないということです。

不思議なくらい「短かった」「案外楽だった」という思う経験は誰しも持っているでしょう。それは最初の段階での緊張や意気込みと大いに関連があります。夢中になれた度合いが、過ぎた時間の長短の印象を決めるとも言えます。夢中になって過ごした結果は、それぞれですが、目標を持って努力した人は結果にかかわらず自分をほめてください。

蘇南高校での生徒と先生と保護者と友達の関係の中で蘇南生成長を例えてみると、今は珍しくなってしまったが、「麦踏み」に例えられます。秋にまいた麦の種が、時の流れに乗って成長し実をつける。しかし、いい実が付くかどうかは麦自身ではコントロールできない。そこで、麦の成長にかかわりを持つ人間が、早春、麦の芽を踏み土を固める。麦の茎が勝手に成長するのを抑え、もっと大きく成長するために土台である根の張りをよくするための手助けしてやるわけです。麦にとっては一見かわいそうに見えるがそのほうが将来しっかり伸びていくのです。しかし、強い刺激を与えるからと言ってハイヒールで麦踏みをする人はいません。麦の芽が無茶苦茶になってしまうからです。踏むほう、踏まれるほう、ともにお互いを分かり合っていることが前提であるし、その目的もはっきりしている。

伸びたい、成長を求めている君たちと、伸びてほしいと願う周囲の人間の関係にも同じことがたとえられています。

君たちは、そんな成長の時期にあたる時を過ごしています。伸びてほしいと願っているのは、保護者であり、教師であり、友達です。周囲にいる人は、一生懸命伸びようとしている君たちに強い根を張ってもらうために、

いろいろな形で君たちとかかわっているのです。本校の先生方も同じ気持ちです。

さて、繰り返し繰り返し皆さんに訴えます。「本を読んでください！」
「読書」で言葉を知り、沢山の世界を間接的に体験してください。

法隆寺大工の西岡常一棟梁の『木のいのち 木のこころ』をおすすめします。これは図書館で借りるのではなく是非買ってほしい本です。感想を校長室まで言いに来てくれることを期待しています。

最後に「どうせやるなら」「 楽しく！ 」です。

長い話をきちんと聞いてくれてありがとう！ では4月5日(火)の始業式に笑顔で会いましょう！ 1年間お疲れ様でした。まずはゆっくり心身を休すませて新年度の準備をしてください。

以上